（別紙４）　　平成　21　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1272700624		
法人名	医療法人社団　創造会		
事業所名	グループホーム　ヴィスタリオ		
所在地	千葉県我孫子市柴崎１２１－３		
自己評価作成日	平成22年2月15日	評価結果市町村受理日	平成22年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成22年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1．お一人お一人がその人らしく安心して生活が出来るよう、本来持っている力を発揮できる環境作り等、支援の充実を心掛けています。
2．私達スタッフは入居者様を支えているだけではなく、多くの場面で入居者様に支えられているという気持ちを大切に、笑顔溢れるホームとしてより一層支援の充実を図っていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「グループホーム ヴィスタリオ」は、バリアフリーとなっており、十分な介助スペースが確保され、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。デイサービスが併設されており、レクリエーションの参加や合同行事等にて交流を図っており、入居者の生活の活性化に繋がっている。「いつも笑顔で楽しく活気のある自由なその人らしい生活・安心と安らぎのある生活」を主眼とした理念を掲げ、職員全員が常に入居者の目線で考え、笑顔や安らぎを大切にした家庭的な雰囲気作りに努めている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

（セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は日々確認できるよう掲示してあり、その人らしく生活が送れるよう全体会議・フロア会議・朝のカンファレンス等を通して日々話し合っている。	「いつも笑顔で楽しく活気のある自由なその人らしい生活・安心と安らぎのある生活」を主眼とする理念を掲げており、理念に基づくサービスの提供できるよう取り組んでいる。事業所内に理念や運営方針を掲示していると共に、会議にて理念の確認をしており、職員全員が共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営会議等で自治会長や民生委員等に協力依頼をしている。又、食事会に参加して頂く等少しずつ交流を深めている。近隣の小中学校のボランティアを受け入れ、交流に努めている。	散歩や外出時に近隣住民と挨拶を交わす関係が築かれている。施設は自治会に加入しており、消防訓練やお祭り等の地域行事に参加していると共に、民生委員や自治会員等を施設行事に招待しており、地域との交流を図っている。また、小・中学校への行事参加や職場体験の受け入れを実施しており、世代間交流も図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議等で自治会の方たちと交流の場を設けている。又、職場体験やボランティアを通し、高齢者を理解できる場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の介護職員や地区の代表・家族会会長等の出席の元、積極的な意見交換を行い、サービスの向上の活かしている。	市職員・自治会長・民生委員・職員・家族等を構成員として、2～3ヶ月に1回、運営推進会議を行っている。会議では、施設の活動報告や質疑応答を行い、施設の理解促進に努めると共に、行政・地域との情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。また、会議の際に、食事会等を行い、参加者との交流を深める工夫もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の研修等に参加、又、医療相談の情報等を得て活用している。	市役所とは、運営推進会議への参加等にて交流があると共に、日頃から報告や相談等を随時行っており、市と密に連絡をする関係が築かれている。また、市主催の研修会や市の運営するサービス事業者会議に参加しており、共にサービスの質の向上に向け取り組む体制が構築されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に行った職員が伝達講習し、職員全体が内容を共有している。但し玄関の施錠に関しては立地条件からくる危険防止に努める為、家族へも説明し、理解を得ている。	身体拘束排除・高齢者虐待防止に関するマニュアルの整備や研修の実施を行っており、職員全員が意義を理解している。入居者の安全面に配慮して玄関の施錠をしているが、希望に応じて開錠・外出しおり、入居者の自由な生活を支援している。	施設にて、平成22年度より身体拘束委員会を立ち上げる予定となっており、今後は、委員会を中心に話し合いを重ね、より入居者らしい生活の支援に取り組んで頂く事を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束についてはマニュアルを作成したり、研修に参加した職員が伝達講習をする事で全職員が共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員共に研修会に参加して理解を深め、必要な家族には説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取って説明、不安や疑問点はその都度確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や不満・苦情等の気持ちを大切に入居者本位を心掛けて会議や朝のカンファレンス等で話し合いをしている。又、家族を通して入居者の意見を取り入れ、改善に心掛けている。	家族会が組織されており、意見交換・要望確認・交流等を行う機会が設けられている。また、家族の面会時や電話連絡時に直接意見・要望等を確認している。挙がった意見においては、会議にて周知・検討をしており、適切な改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	家族会で意見を聞いたり、運営会議で家族会代表の方が参加して反映できる場を設けている。	フロア会議・全体会議・ケース会議等、職員の意見・提案を確認する機会を多く設けている。また、管理者は個別に職員と個別に話をする機会を設けており、職員の思いや意見の把握に努めている。	施設として、人事考課制度について、現在調整を行っているが、今後は、人事考課を有効に活用して頂き、職員のスキルアップ・意向の把握等を積極的に行い、より働きやすい職場環境の整備に取り組んで頂く事を期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課、決算賞与の支給、バカンス休暇の奨励、その他新年会、誕生会等各自がやりがいを持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルや経験年数に合わせて全員が研修に参加できるように配慮している。 又、法人内の研修も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の意見交換会等に定期的に参加し、勉強及び意見を交換している。又、法人内の研修・意見交換会にも参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談・見学等の際に担当者が時間を設け、対応している。電話での相談も受けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談・見学等の際に担当者が時間を設け、対応している。電話での相談も受けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際に傾聴し、内容に応じたサービスが受けられるよう働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アクティビティの時間、フリーの時間等で一緒に楽しみながら創作して完成させた作品を展示し、喜び合ったり、一緒に家事を行いながら談話、傾聴する事で共に過ごし、支え合う関係を築いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や食事会には参加を呼び掛け、共有した時間を持てるよう努めている。入居者の不穏時等、いつでも家族が泊まれる体制を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会も受け入れたり、美容院や掛かりつけの病院にも自由に掛かれる様、本人･家族の希望も取り入れている。	入居者の馴染みの方の面会や手紙のやり取り等が行われており、馴染みの人との関係の継続を支援している。また、家族との外泊や外出は自由となっており、家族との関係継続にも配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態や相性を把握し、食事の席や居室の変更をする等で全員が過ごしやすい生活に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人･家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した先への訪問を行ったり、退去者の訪問も受け入れている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に十分に希望を確認し、職員間で話し合いを持ち、本人の意向に沿えるように努めている。	契約時に、本人･家族から意向･生活歴･身体状況等を確認している。また、必要に応じて医師からの意見書や他サービス事業所からの情報をもらい、より詳細な情報の把握に努めている。入居後は、気付きノートの活用や会議での意見･情報交換にて、職員全員が常に新しい情報を共有できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に確認した生活歴等の情報を全ての職員が確認している。又、家族の面会時に情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録やケアプランを通して本人の現状を把握している。又、入居者のペースを尊重しながら支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から随時希望や意見を聞き、プランを作成している。個別担当者を設け、細かい配慮が出来るように努めている。	初回は1カ月の暫定の介護計画を作成し、生活状況や職員の意見等を確認してから、正式な介護計画を作成している。定期的に介護計画の評価や目標の達成状況の確認を行い、必要に応じて見直しを行っている。介護計画の作成の際には、必ず職員の意見や家族の意向･要望等を確認しており、現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過を個別に記録し、また気付きノートも設け、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生け花、貼り絵、ヘルスリズムス等併設のデイサービスを活用し、ニーズに対応できるよう柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア係を作り、ボランティアの受け入れの充実に努め、年に数回消防署の協力を得て消防訓練を行っている。運営推進会議を通して家族や地域の方々に内容を報告している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も本人･家族希望の掛かりつけ医にかかれるようにしている。受診時は入居中の状況が分かるように情報提供書を渡している。	希望のかかりつけ医への受診が可能となっていると共に、希望に応じて内科･歯科の往診が実施されており、適切な受診支援が行われている。訪問看護が実施されており、適切な健康管理が行われている。また、緊急時においては、協力病院や訪問看護と24時間連絡が取れるようになっており、協力体制が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の准看護師又は非常勤の看護師が対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療相談員と情報交換を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ必要な方は居ないが重度化した場合の指針をまとめ、家族にも説明している。	重度化や終末期における施設の方針･対応方法を説明している。希望や必要に応じて、家族と話し合いを重ねながら他サービス･他施設･医療機関への切り替え等が円滑に行えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居時及び夜勤等で一人勤務になる前に研修を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い、運営推進会議等において地域の方たちにも協力を呼びかけている。	消火器・非常ベル・自動通報装置・火災報知器等が設置されていると共に、非常災害時の対応・避難経路等のマニュアルが整備されている。消防署立会いのもと、年2回、消防避難訓練が併設のデイサービスと合同で実施されており、職員・入居者が非常・災害時の対応を身に付けている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人による個人情報保護法の研修を全員が受けている。その都度対応についてカンファレンス等で意見を交換している。	個人情報ガイドライン・接遇マニュアル等を整備していると共に、日頃の業務や会議にて接遇・対応方法を指導している。その場・その時・その人にあった言葉使いや対応方法を職員全員が理解しており、その人らしい生活を支援している。また、各居室に鍵と収納スペースが設置されており、入居者のプライバシーが確保されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が伝わるように働き掛けたり、傾聴したりして自分で決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい言動、ペースを守れるよう声掛け、見守りを行っている。入居者全員での活動は難しい為、個人に合った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望のある方は一緒に洋服を選んだり、理容に関しては月4回業者が来訪。本人の希望を確認して実施している。又、体力的にも可能で家族の協力が得られる方は美容院にも外出されている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の能力に合わせながら一緒に食事の準備や片付けを行っている。週に2回自由メニューの日を作り、希望の献立にしたり、一緒に買い物に行き、選ぶ楽しみへの支援も行っている。	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。週5日、配食サービスを利用しており、食材の配送や献立の作成を業者に依頼している。また、週2日は入居者の希望を取り入れながら食材の買い出しや献立の作成は共同で行っている。定期的に外食会や特別食の提供を実施しており、食の楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	リズム表に記入する事により食事摂取量を把握している。必要に応じ、随時細くしている。水分量の少ない方は個々に把握して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいの励行、定期的な歯科検診により状態を把握している。本人の状態により声掛け、介助をし、毎食後口腔清拭を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リズム表を活用し、排泄パターンを把握するよう努め、入居者に合った支援を家族と相談しながら行っている。失禁のある方は羞恥心や自尊心を傷つけないようさりげなく介入している。	入居者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めており、適切な声掛け･誘導にてパットやオムツをなるべく減らすよう取り組んでいる。また、排泄の拒否に対しては、その人に合った言葉掛けや対応を工夫し、適切な排泄の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師により講習にて便秘を理解し、リズム表にて個々の排泄状況、個々に応じて水分摂取量を記入、把握した上で予防と対策に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在の勤務体制では夜勤帯は難しいが極力一人ひとりの希望に合わせるよう努めている。	入浴は毎日実施されており、希望に応じて回数等柔軟に支援している。また、必要に応じてシャワー浴や清拭等を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。脱衣所には、エアコン･ヒーター･トイレが設置されており、快適な入浴が支援できるよう配慮している。併設のデイサービスの特殊浴槽を使用する事が可能となっており、入居者の身体状況に合わせた入浴支援が行えるよう協力体制が構築されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう配慮した上でその方の体力や生活習慣に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による薬剤指導の体制があり、常に相談及び指導を得られている。又、薬の説明書をファイルして服薬状況が常に確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活歴等の情報を十分に得て入居後も個人個人の好みや能力を見極めて個々に対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブ等希望に添って対応している。又、季節ごとの行事を計画し、家族と共に参加できるように支援している。又、個々の能力に応じて対応している。	入居者の希望や天候に応じて、日頃から散歩やドライブ等の外出支援が行われている。併設のデイサービスへの行き来が可能となっており、レクリエーション参加や合同行事の実施等にて、外部との交流が図られている。また、デイサービスの車両を借りる事も可能となっており、外出活動の幅を広げている。定期的に外出会を企画･実施しており、戸外での楽しみを提供している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に応じて買い物支援や自己管理への支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に十分説明し、協力を得て対応している。年に6回ボランティアの方の指導により絵手紙を書き、それを家族宛に郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある花や置物に関しては取り組んでいる。蛍光灯も明るすぎないような物を使用し、カーテンやブラインド等も活用している。カレンダーや時計を見やすい場所に設置している。トイレも家庭的な面を考慮した上で表示している。	施設内は、バリアフリーとなっており、十分な介助スペースが確保され、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。リビングには、ソファーやテーブルが設置されており、入居者が思い思いにくつろぐ事が可能となっていると共に、和室スペースが設置されており、掘りごたつの設置や季節飾りにより、季節を感じられる施設作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には無いが気の合った方同士互いの居室にお邪魔して過ごしたりという事もある。だが台所が落ち着く人、食堂が落ち着く人、テレビの前が落ち着く人、それぞれが好きな場所を持てている様子。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた馴染みの家具を用意して頂けるよう働き掛けている。	希望に応じて馴染みの家具等を持ち込む事が可能となっており、入居者が居心地良く生活できるよう配慮していると共に、畳や絨毯を敷く事も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りがなされている。各居室にエアコンが設置され、適切な空調管理がなされている。また、各居室に鍵と収納スペースが設置されており、入居者のプライバシーが確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレ等に手摺りを設置、又、居室、トイレには入居者の目線に合わせた表示をしている。石鹸や歯磨き粉等必要に応じて昔馴染みの者に切り替えて本人が分かるようにしている。		